平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	警防業務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	岩上一彦			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	継続的に講習会を実施することにより、講習修了者を増やす。
②①に基づく取組み結果	継続的に講習会を実施することができた。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民・市内事業所の従業員	意図（対象をどうするのか）	市民に心肺蘇生法、AEDの使用方法、応急手当の方法の普及啓発を図り、有事の際にしっかりした応急手当てができるようになる。
②事務事業の概要	救急車到着までの間、現場に居合わせた人により効果的な応急手当が実施できるよう、市民及び各種団体を対象に救命講習を実施する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	AEDが一般市民にも使用可能になったことにより、初期の救命処置が注目されるようになった。心肺蘇生法のガイドラインの変更により、実施方法の変更、講習項目が細分化され、今後、更なる受講者数の増加が見込まれる。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	市広報紙、ホームページ等で地域住民に参加を呼びかけ、消防本部で普通救命講習Ⅰ（一般市民向け：成人を対象）・Ⅱ（一定頻度者向け）・Ⅲ（一般市民向け：小児・乳幼児を対象）62回実施し、731人が参加、また上級救命講習（一般市民向け：成人・小児・乳児を対象）を2回実施し、32人が参加した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	普通救命講習修了者数	782	643	763	人	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）		14,836	15,043	金額（千円）	内容	24,966
	国支出金（千円）			2,224	救急活動用医薬材料	
	県支出金（千円）			2,553	消火栓補償	
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）	14,836	15,043			24,966

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	継続的に講習会を開催し、更なる受講者の拡大のため効果的な広報活動等の実施を検討する。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	継続的に取り組み検証し、対応することが安全に暮らせる社会に繋がる。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績			0	当初		0	H28からの繰越
				H28⇒29繰越			
③達成状況				補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	消火栓改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	岩上一彦			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	経年劣化によりボルトが腐食し、破損の危険がある消火栓7基のうち、2基の消火栓の改修を行う。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	経年劣化によりボルトが腐食し、破損の危険がある消火栓7基のうち、2基の消火栓の改修を行う。
②①に基づく取組み結果	改修計画を作成し、優先度の高い消火栓2基の改修を行った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	消火栓	意図（対象をどうするのか）	経年劣化により破損の危険がある消火栓を改修する。
②事務事業の概要	経年劣化により破損の危険がある消火栓7基を、4ヶ年に分け優先度の高いものから計画的に改修を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	消火活動に欠かせない消防水利について、有事の際の使用に支障がないよう今後も維持管理を行う必要がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	改修計画に基づき消火栓2基の改修を行った。

②成果を表す指標

	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
i	改修完了消火栓		2	2	基	業務取得
ii						
iii						

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	3,486	3,148			4,585
国支出金（千円）			3,148	消火栓改修工事	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	3,486	3,148			4,585

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	現在使用不能としている消火栓について、早急に改修を行う必要がある。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	消火活動に欠かせない消防水利について、今後も維持管理を行う必要がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	消火栓2基の改修。	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	消火栓2基の改修を行った。	4,420	4,420	当初	4,420	3,148	H28からの繰越 0
				H28⇒29繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0		現年分 3,148
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
		平成30年度への繰越額（単位；千円）	0				

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	防火水槽解体・撤去事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	1	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	岩上一彦			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	該当なし	③平成30年度に取組む改革・改善内容	事業が完了したため、30年度に取組む内容等なし。
②①に基づく取組み結果	防火水槽の解体撤去工事を実施した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	防火水槽	意図（対象をどうするのか）	解体撤去工事を実施し、原状回復する。
②事務事業の概要	防火水槽敷地地権者からの防火水槽撤去要望により、解体撤去工事を実施するもの。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	防火水槽用地の賃貸借契約に基づき、今後も地権者からの要望があった場合は、防火水槽を解体撤去し現状に回復して返還する必要がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	東道野辺五丁目地先防火水槽の解体撤去工事を実施した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	解体撤去防火水槽			1	基	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	0	23,674			0
国支出金（千円）			23,674	解体撤去工事費	
県支出金（千円）					
市債その他（千円）					
一般財源（千円）		23,674			

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	用地を賃貸借している防火水槽は、今後も地権者からの要望があった場合は、解体撤去をする必要が生じ、状況に応じ工事費が高額となる。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	1終了
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	防火水槽の解体撤去が完了したため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	防火水槽の解体撤去	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	解体撤去を実施した。	23,674	23,674	当初	0	23,674	H28からの繰越	12,000
				H28⇒29繰越	12,000			
③達成状況	完了			補正	0		現年分	11,674
④未完了・非着手の理由				流用・充当	11,674			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）		0				

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	消防団運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	2	
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	岩上一彦			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	消防団施設の維持管理及び人員確保と装備の充実化を図る。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	消防団施設の維持管理及び人員確保と装備の充実化を図る。
②①に基づく取組み結果	消防団広報誌また、各イベントを活用し団活動PRにより広く広報した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防施設、消防団車両	意図（対象をどうするのか）	災害活動に関する消防団員の環境整備及び消防団施設の機能維持管理を実施する。
②事務事業の概要	各種災害に出動して中心的な役割を果たす消防団を維持するため、計画的な運営を図るとともに、環境を整備する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	産業・就業構造の変化等による被雇用者（サラリーマン）の増加と若年層の流出、また、消防団員の高齢化がさらに進み、入団者の減少による定員割れが予想される。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	地域防災力の要である消防団について、活動への理解や協力を得るため消防団広報誌を作成し、市内全戸配布を行った。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	消防団員の定数に対する充足率	90.4	90.4	90.9	%	業務取得
	ii	機械器具点検	480	480	480	人	業務取得
	iii						

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
事業費（千円）	27,145	27,499	金額（千円）	内容	29,139
国支出金（千円）			6,851	消防団員報酬	
県支出金（千円）			8,309	費用弁償	
市債その他（千円）			1,139	健康診断手数料	
一般財源（千円）	27,145	27,499	2,060	消防団運営交付	29,139

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	環境整備及び広報活動の拡充等を行い、団員の減少に歯止めをかけ人員を確保する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	防災に関する市民ニーズは上昇傾向にあり、今後、さらに高まると予想できるため、継続して行う必要がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績			0	当初		0	H28からの繰越
③達成状況				H28⇒29繰越			現年分
④未完了・非着手の理由				補正			
				流用・充当			
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					

平成30年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	消防団装備品整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	9	1	2	○
政策	23安全に暮らせる社会システムをつくります	担当課室	警防課			
施策	234消防力の強化	担当課室長	岩上一彦			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	消防団員の防火衣について安全性、活動性に優れた防火衣への更新を行う。	③平成30年度に取組む改革・改善内容	消防団員の防火衣について安全性、活動性に優れた防火衣への更新を行う。
②①に基づく取組み結果	消防団員の防火衣について、安全性及び活動性に優れたものに更新した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	消防団員、消防団装備品	意図（対象をどうするのか）	消防団装備品について機能性等に優れたものに更新する。
②事務事業の概要	消防団員が効果的な活動を行うために、消防団装備品の充実強化を図る。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	地域防災の中心的役割を担う消防団の活動は、今後さらに重要となることが想定されることから、引き続き消防団装備品の充実を図る必要がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	防火衣61着を更新した。

②成果を表す指標		指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	消防団活動服の更新数	326			着	
	ii	耐切創手袋の配備数		160		双	
	iii	トランシーバーの配備数		24		機	

③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算（事業費）の主な内訳		平成30年度予算
			金額（千円）	内容	
事業費（千円）	806	4,994			3,000
国支出金（千円）			4,994	防火衣	
県支出金（千円）					500
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	806	4,994			2,500

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	消防団装備品整備事業として計画的に装備品を整備する必要がある。					
②評価	ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
	ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	3高い		
③上記評価の理由	消防団装備品の充実強化に関しては、計画的に行っており、今後もこれに係る手続きを進める必要がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成29年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成29年度の計画	防火衣の更新	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	防火衣を61着更新した	6,000	6,000	当初	6,000	4,994	H28からの繰越 0
③達成状況	完了			H28⇒29繰越	0		現年分 4,994
④未完了・非着手の理由				補正	0		
				流用・充当	0		
		平成30年度への繰越額（単位；千円）					